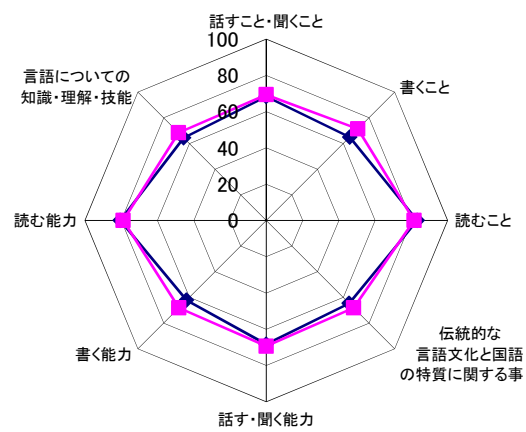


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.2	69.3	73.4
	書くこと	65.0	71.3	74.6
	読むこと	83.2	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.6	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	68.2	69.3	73.4
	書く能力	62.1	68.1	71.7
	読む能力	80.5	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	64.5	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

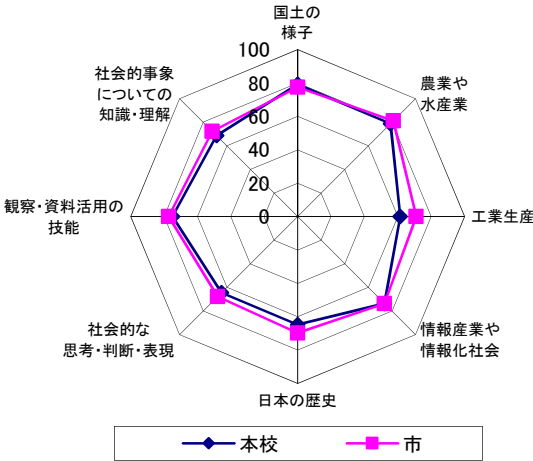
領域	本年度の状況	指導の工夫と改善
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことの領域では市の正答率と比べて、同等となっている。 ●話し手の意図を考えながら、話合いの内容をまとめる記述式の問題では、正答率が27.7%と低く、市の正答率よりも2.2ポイント下回っている。	○良好な状態にあるもの ●課題は多いもの ・平均正答率では市を下回ったが、項目ごとに見ても大きく下回っているものは無い。日頃の授業などで、教師の話をよく聞く姿勢や、友達の意見から意図を読み取りメモをとる習慣をつけるよう、引き続き指導をしていく必要がある。
書くこと	●書くことの領域では市の正答率を6.3ポイントと大きく下回った。 ○意見文を書く問題では、市の正答率と同等又は上回っている項目がある。 ●2段落構成で文章を書く問題の正答率が低い傾向がある。	・作文を指定された条件で書くことに課題が見られた。様々な課題での作文を書く機会を増やすことや、それに伴った書き方の指導の方法を、視覚化するなどして児童に分かりやすく伝えていく。 ・国語の学習だけでなく、様々な教科を通して、自分の考えやその説明などの文章を書く習慣をつけることができるようにする。
読むこと	○読むことの領域では市の正答率を1.7ポイント上回った。 ○説明文を読み、その内容を読み取る問題の正答率が高い傾向にある。	・この領域においては、ほとんどの項目で市の正答率を上回っている。日頃からの読書活動の推進に力をいれて取り組んでいる成果であると考えられる。今後も、読書活動の推進と共に、文章に触れる機会を増やして、児童の読む力の育成に取り組んでいく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の領域では、市の正答率を3.5ポイント下回った。 ○漢字の読みに関しては、市の正答率に比べて同等である。 ●漢字を書く問題では正答率が低い傾向がある。	・漢字を書くことに課題が見られた。特に複雑な漢字や、日常的にあまり使用することのない漢字を書く問題では、市の正答率を下回った。定期的に児童の漢字の習熟を確認する機会を増やし、使用頻度の低い漢字や読み方も覚えて書くことができるよう継続的に取り組んでいく。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	79.2	77.5	74.0
	農業や水産業	78.7	81.1	73.7
	工業生産	61.5	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	73.6	73.7	63.2
	日本の歴史	64.8	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.5	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	74.9	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	68.6	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

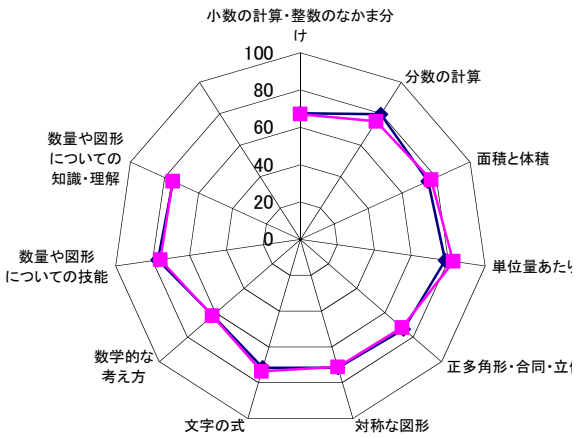
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○領域全体の正答率が市の平均を上回った。特に基礎的な知識を問う設問での正答率が高い。 ●気候の特徴を表す文章から、該当する雨温図や都市の位置を選ぶ設問の正答率が市の平均を大きく下回った。	・基礎的な知識の定着を一層図るために、日本と関係のある時事を地図帳等で確認して興味や関心を高め、生活の文脈に関連付けて学ぶ機会を取り入れていく。 ・資料やデータを活用する際には、着眼点を話し合ったり、教師が示唆したりして、関連性や特徴を多角的に読み取る学習を取り入れる。
農業や水産業	●領域全体の正答率は市の平均を下回った。特に複数の資料から読み取って考えたことを記述する設問で、市の平均を大きく下回った。 ○日本の食料自給率について表すグラフを選ぶ設問では、正答率が市の平均を上回った。	・複数の資料を比較して様々な角度から考え、検討する活動を意図的に多く取り入れ、最終的に文章にまとめる学習を継続的に行う。文章にまとめる際には、キーワードやリード文の活用などの支援をする。
工業生産	●領域全体の正答率は、市の平均を下回った。特に化学工業の製品を選ぶ設問での正答率が50%以下と低く、かつ市の平均を20.6ポイント下回った。 ○工業地帯・工業地域の立地に関する問題の正答率は市の平均と同等であった。	・化学工業はもちろん、工業に関する基礎的な用語を適宜復習する。その際、日常生活で使用しない言葉や混同しやすい言葉については、十分な説明を行い、繰り返し意味を確認して定着を図る。 ・工業地帯・工業地域の立地や生産物について、単純な暗記ではなく、理由や背景を理解しながらより深く理解できるような学習の展開が必要である。
情報産業や情報化社会	○領域全体の正答率、各設問の正答率はいずれも市の平均と同等である。学習した内容が概ね定着していると考えられる。	・学習内容を自分事として捉え、興味をもって学習ができるよう、生活と結び付けて考えることができる教材を用い、理解を深めるようにする。その際、情報の受け手として、あるいは発信者として、様々な観点から比較して適切に判断することの重要性についても併せて指導していく。
日本の歴史	●領域全体の正答率が市の平均を下回った。 ○室町時代に完成した能について問う設問の正答率が市の平均を4ポイント上回った。 ●大和朝廷による国土の統一の様子について資料をもとに考え、記述する設問では、正答率が24.3%と低い。	・基礎的な知識の定着を図るため、歴史上の人物や出来事だけではなく、その背景についても考える活動を取り入れ、より深い知識の獲得を図れるような学習展開を意識する。 ・記述形式の問題では無解答の割合が高い。資料から読み取り考えたことを伝えあったり、文章にまとめたりする活動を意図的、継続的に取り入れていく。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.1	70.8	65.9
	量と測定	76.8	79.9	77.0
	図形	72.7	71.8	74.6
	数量関係	73.0	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	62.1	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	77.2	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	75.0	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

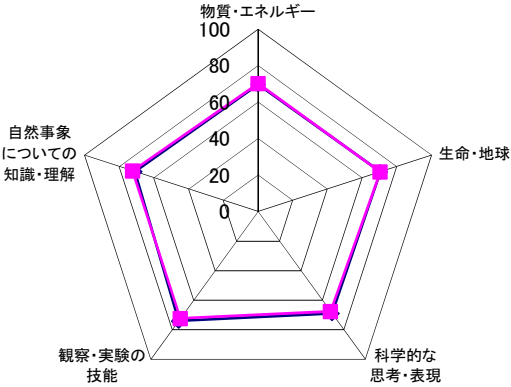
領域	本年度の状況	指導の工夫と改善
数と計算	○本校の平均正答率は、市の平均正答率を2.3ポイント上回った。 ○分数の計算の正答率が高く、特に真分数＋真分数（通分あり）の正答率が市の平均正答率を9ポイント上回った。 ●「問題の場面を理解し、求めた答えが示された条件と矛盾することを説明する」設問では、市の平均正答率を7ポイント下回った。	○良好な成績を挙げた。今後も継続していき、さらにドリル等を活用して効果的な指導を工夫していく。 ・自分の考えを文や図などで説明することができるようにするため、必ず自分の考えを書かせ、ペアなどで他の人に説明する時間を設けるようにする。
量と測定	●本校の平均正答率は、市の平均正答率を3.1ポイント下回った。 ○「直方体を組み合わせた形の体積を求める」設問では、市の平均正答率を3.6ポイント上回った。 ●「図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶ」や「道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ」設問では、市の平均正答率を6ポイント下回った。	・「速さ」や「割合」の学習については、数直線や図などを用いて、自分で説明する活動を増やし、意味を捉えさせていくことで定着を図っていく。
図形	○本校の平均正答率は市の平均正答率をやや上回った。 ○「2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める」設問では、市の平均正答率を10.4ポイント上回った。 ●「合同な三角形を作図する」や「線対称な図形の対称の軸」について答える設問では、市の平均正答率を4ポイント下回っている。	・習熟度別少人数指導により、きめ細やかな指導をすることで、図形に関する知識が定着している。今後も習熟度別に合った指導法を考え、児童の理解に結びつくようにしていく。 ・合同な三角形の作図では、作図の条件などを理解させた上で作図できるようにし定着を図っていく。 ・対称な図形については、ドリルやプリント等で繰り返し復習し、定着を図っていく。
数量関係	○本校の平均正答率は市の平均正答率をやや上回った。 ○「もとにする量が同じとき、割合が大きい方が比べる量が多くなることを、具体的に説明する」設問では、市の平均正答率を10.1ポイント上回った。 ●「2つの文字を使った式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める」設問では、市の平均正答率を8.1ポイント下回った。	・文字式の作り方から復習し、文字が何を表しているか理解できるようにして、練習問題に取り組ませ、定着を図るようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.8	70.3	69.0
	生命・地球	70.5	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	68.9	67.5	66.4
	観察・実験の技能	74.0	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	71.0	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○物質・エネルギー領域の正答率は市と同等である。特に「物の燃え方」については、全ての設問において市の平均を上回った。 ●「物のとけ方」の、食塩を溶かす前後の全体の重さが変わらないことを理解している児童の割合が約半数と低く、かつ市の平均を大きく下回った。 ●基礎的な知識を問う設問の正答率が低い傾向にある。	○良好なもの ・ 児童が納得できるまで実験し、丁寧に確認した内容に関する設問では正答率が高い。今後も、実感を伴った理解ができるよう、実験や観察などの体験活動を重視した学習の展開を意識していく。 ・ 「物のとけ方」など、目に見えない物質の振る舞いに関する概念的な理解が必要な内容では、市も本校も正答率が低い。3年生からの概念構築を系統的に行い、実験や観察から推測できることをモデルを使って話し合うなど、理解を深めるための時間を増やしていく。 ・ 科学的な用語や法則などの基礎的な知識については、適宜復習問題等に取り組み、定着を図るようになる。
生命・地球	○生命・地球領域の正答率は市と同等である。 ○「月と太陽」の、月と太陽の位置関係から俳句の情景を推測する問題の正答率が市の平均を10ポイント以上上回った。 ●「植物のつくりとはたらき」の、導管に関する設問で、正答率が市の平均を大きく下回った。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」の、「拍動」に関する設問で、正答率が市の平均を大きく下回った。	・ 「月と太陽」では、月と太陽の位置関係を実際に観察して調べたり、映像や模型を使って学習したりしたことが正答率の高さにつながったと考えられる。今後も体験や視覚教材等の充実を図っていく。 ・ 「植物のつくりとはたらき」については、授業ではジャガイモやホウセンカを使って導管を確認したが、設問は形状が異なるセロリの導管を問うものであったため、戸惑った結果と考えられる。応用できる知識を身に付けるため、植物のつくりと共通する部分や要素を理解できるよう、様々な植物を比較する資料等を用意する。同時に、他の学習でも、普遍的なものや法則性について意識する学習を心掛けていく。 ・ 「拍動」に限らず、日常生活では使用しない科学的な用語の定着に課題がある。言葉の意味と用いる場面を丁寧に指導し、意図的に教師が活用することで、定着を図ると同時に、適宜復習問題等で取り上げていく。

宇都宮市立御幸小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・記述力の向上に向けた取組 ・発展的・応用的な課題に向けた取組	・授業の振り返りの記述、自己の考えや意見についての記述する活動を多く取り入れ、記述することに慣れさせる。 ・授業では、発展的・応用的な課題を積極的に取り入れ、多角的に思考したり、適切に表現したりする力を高めていく。	・年度当初に比べ、国語「書くこと」の領域の正答率が上がり、その他の教科においても、記述式の問題では自分なりの表現で書くなど、粘り強く取り組む児童が増えた。しかし依然として無回答率が高く、課題が見られる。引き続き基礎・基本の定着を図るとともに、発展的な学習課題についても、より一層発展的に取り組んでいく必要がある。
・「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感し、意欲的に学習に取り組むことができる授業づくり	・課題提示の工夫。 ・児童が自ら問いをもち、主体的に取り組めるような学習活動の工夫。 ・児童が友達と協力して活動したり、伝え合ったりできるような学び合いの工夫。	・学習意欲については、市の平均に比べ同程度であるが、個人差はもちろん学年によってもばらつきがあった。全ての児童に「学ぶ楽しさ」や「分かる、できる喜び」を体感させるには、個々の学習意欲を喚起する課題設定の工夫や、学び合いを促す効果的な支援の方法について、今後も十分な検討が必要である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

年度当初の結果と比べると、国語では「書くこと」「読むこと」、算数では「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域で正答率の向上が見られた。学校全体で取り組んでいる基礎学力向上のための諸方策（音読、計算ストレッチ、朝5分ドリルの活用、レベルアップ教室の実施）が結果につながったと考えられる。また、各教科で自分の考えを伝え合い学び合える場の設定をしたことで表現力の向上が図れたのではないかと考える。引き続き、本校の学力向上への取り組みを継続していくことで、全学年での学力の向上と安定を目指したい。